

ひらつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM '87 10月号



10月の行事

10月

- | | |
|--------|-----------------|
| 3 土 | 古文書講読会／土曜観察会 |
| 17 フ | " / " / 石仏を調べる会 |
| 18 フ | 相模川を歩く会 |
| 24 フ | 体験学習「星座早見を作ろう」 |
| 28 水 | 星を見る会「月と木星を見よう」 |
- ・特別展（特展室）
 - 13～29 "小田原北條氏文書展
 - ・寄贈品コーナー
 - ・～30 "道具の歴史Part3" 展
 - ・プラネタリウム
 - ～25 "星座ってなんだ"

11月

- | | |
|--------|----------------|
| 7 土 | 古文書講読会／土曜観察会 |
| 8 日 | 体験学習"紙すき" |
| 14～15 | 天体観察会（写真観測）七国荘 |
| 14 土 | 石仏を調べる会 |
| 15 日 | 自然観察会（黒岩付近） |
- ・寄贈品コーナー
 - 1～29 サマーセミナー展
 - ・プラネタリウム
 - 7～ "木星のなかまたち"

●体験学習「星座早見を作ろう」

星や星座をさがす時、見える時刻を調べる時に便利な星座早見盤を作り、使ってみます。

・日時 10月24日（土）

15時30分～19時

・場所 博物館科学教室・屋上

・参加費：200円（材料代）

申込み：往復ハガキに住所・氏名・年令等を記入のうえ10月6日までに博物館へ。多数の場合は抽選で20名まで

●星を見る会「月と木星を見よう」

月面のクレーターや木星の表面模様・衛星などを観察します。

日時：10月28日（水）18時～20時

場所：博物館科学教室、屋上

参加自由

●自然観察会

日：11月15日（日）9～16時 雨天中止
場所：大磯町黒岩付近

テーマ：冬を迎える動植物のようすを観る

申込み：参加希望者は10月30日までに往復ハガキで博物館へ。多数の場合は抽選で30名。

●体験学習「紙をすこう」

伝統的な手すき和紙の技法を学びましょう

日時：11月8日（日）9～15時

場所：博物館科学教室

参加費：800円（材料代）

申込み：往復ハガキに住所・氏名・年令等を記入のうえ、10月30日までに博物館へ。多数の場合は抽選で20名まで。

秋期特別展

小田原北条氏文書展

10月13日

～

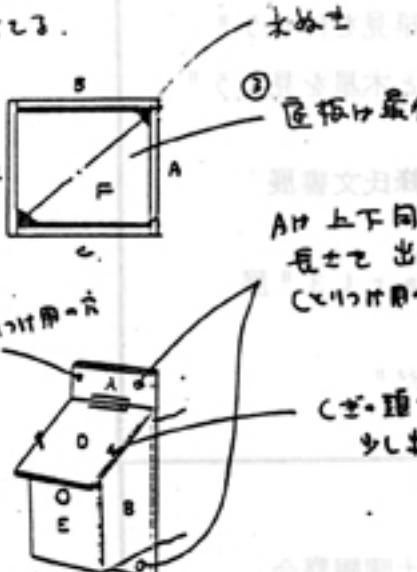
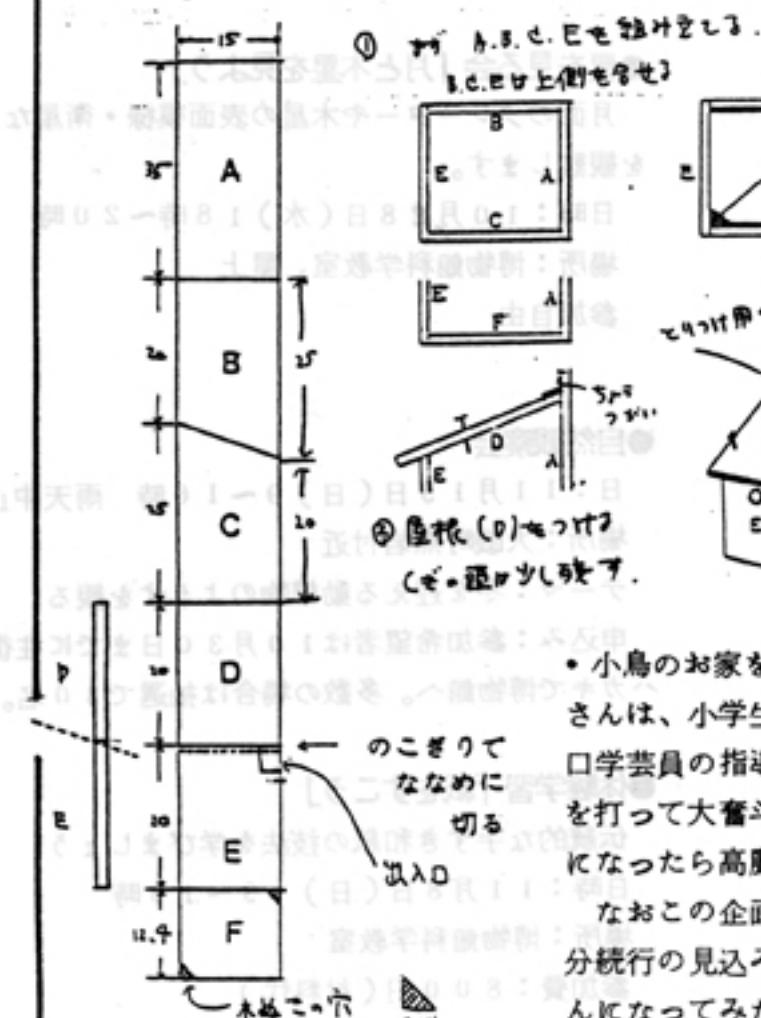
10月29日

小田原北条氏は、関東一円にその支配を広げ、戦国期の有力大名として、その名を今に伝えていきます。当市においても、小田原北条氏に関する資料は、市指定文化財の「北条氏所領役帳」「清田文書」を始め、金剛頂寺文書、真芳寺文書等が知られています。そこで、市域及び大住郡下の北条氏に関する資料を一堂に集め、数少ない中世文書について紹介します。

○主な展示資料

北条氏政、氏直画像（早雲寺蔵）
藤間文書、二見文書、二宮文書、鈴木文書
川勾神社文書、地福寺文書、清田文書、真芳寺文書、妙楽寺文書、金剛頂寺文書、早雲寺文書、堀江文書等、約40点、その他「北条氏所領役帳」（今井本、早雲寺本）を展示。

○巣箱の作り方（シジュウカラ用）



・小鳥のお家を建てようと、この日集まった大工さんは、小学生からお母さんを含めた15名。浜口学芸員の指導のもとに、線をひき鋸をかけ、釘を打って大奮斗の末、約3時間で完成させた。冬になったら高麗山にかけてゆくそうだ。

なおこの企画、小鳥達の住環境悪化のため、当分続行の見込みとか、お家を建てたい方、大家さんになってみたい方は、次回には是非御応募ください。

体験学習

巣箱を作ろう



シジュウカラ

今プラネタリウムでは

星座ってなんだ



今プラネタリウムでは「星座ってなんだ」というタイトルで、星座を話題にとりあげています。星座はエキゾチックな星座絵が印象的ですが、本来は星と星とを結んだだけのものです。私たちがそんな星座に引き付けられるのは、星座に古代の人々のロマンを感じるからでしょう。

秋の星座

秋の星座はペガススが南中する頃、空全体にひろがります。プラネタリウムで全天に展開する星座をご覧にいれましょう。秋の星座たちは、どの星と星を結んでいるのか、じっくりと見ることができます。



星座のふるさと

星座は、古代メソポタミア地方が発生地、といわれています。チグリス川とユーフラテス川にはさまれたゆたかな土地で始まったとされる農耕、牧畜。古代文明は、時やこよみを知るために太陽や星の運行に注目し、星座を生み出したのだ、と言われています。

ギリシャへ

星座は、人々の交易、交流によって伝えられました。まず、地中海の東岸に住み、交易によって栄えたフェニキアに伝えられました。彼らは船で航海をするときに、方角を知る手がかりに使ったと言われています。後に地中海を西に進み、ギリシャに伝えられました。ギリシャでは生活の道具から神話と結び付き、神々の世界へと移り変わってゆきます。私たちが知っている星座神話です。この時代に星座の半数以上が出来上がりました。

星座と星座絵

私たちは星座といえば星座絵でおぼえているとのほうが多いように思えます。星座絵は古くから決められたものではなく、後世の人が作ったものです。私たちが良く目にする星座絵は、イギリスのグリニッジ天文台初代台長、フラムスチードが手がけた、1729年出版の天球図譜に描かれた星座絵がもとになっています。

秋の夜空を飾る星座たち、星と星を結びながらたどってみてください。（25日まで）（図）

プラネタリウム案内

| 投影日 | 券発売開始時刻 | 回 | 投影開始時刻 |
|--------|--------------------------------|-----|--------|
| 土曜日 | 朝9時より 第1回、第2回の 券を同時に発売する | 第1回 | 14:00 |
| | | 第2回 | 15:30 |
| 日曜日 | 朝9時より 第1回、第2回の 券を同時に発売する | 第1回 | 11:00 |
| | | 第2回 | 14:00 |
| 火曜日 | 学校専用 | | |
| 水曜・木曜日 | 学校・団体専用 | | |

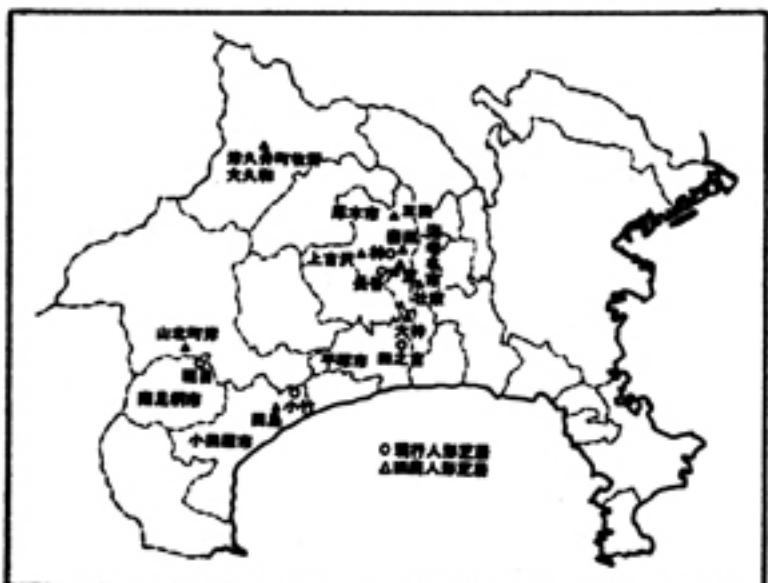
- 観覧料 1人 100円
- 所要時間 1回 45分
- 定員 128人
- 団体申込み 20人以上で団体扱いとなり、団体専用日にご利用いただくことになります。くわしくは博物館受付にお問い合わせください。
- 乳幼児の観覧はご遠慮ください。
- 休館日 月曜日、月末、祝祭日、年末、年始

・人形淨瑠璃

「信仰と娯楽」のコーナーでは、社寺参詣や講ともに人形淨瑠璃の紹介もしています。義太夫の見台、太棹、人形の頭、衣装を付けた人形などが展示しております。すでによく知られているように、四之宮には「前鳥座」という名の人形芝居の一座が継承されており、伝統的な娯楽のひとつとして人形淨瑠璃をとりあげたわけです。

平塚の各地区の古老から、大正・昭和初期の暮しぶりについて話をうかがっていると、しばしば義太夫のことが出てきます。現在では、義太夫を趣味とする人は少ないようですが、昭和初期頃までは農村の娯楽として各地に義太夫のグループがあったようです。正月には仲間が集まってうたい初めが行われたり、また8月23日の真田与一の本祭りには、近在から多くの人たちが真田の天徳寺に集まり、義太夫大会が行なわれていたことは有名です。真田の来歴を綴った『真田見聞記』という写本には、明治末ころの様子として「八月廿三日ハ大般若転読シ、夜ハ素人義太夫ヲ語ル。コレ夜伽スル者ノ為ニ長年仕来リ候。當時夜ハ仲々ノ群集ナリ」と記されています。

人形芝居は義太夫に合わせて演じられるものであり、かつての人形芝居の人気は、各地で盛んだった義太夫を背景にしていたといえそうです。



神奈川県内で伝えられている人形芝居には、四之宮の前鳥座の他に、小田原市小竹の下中座、厚木市林の林座、同長谷の長谷座、南足柄市斑目の足柄座があります。相模川以西の地域にわたって伝えられているのが特色ですが、それぞれの来歴は十分に判っているわけではありません。

平塚の前鳥座は戦争中に一時途絶え、昭和27年に再興され、このときに現在の座名が付けされました。四ノ宮でいつごろから人形芝居が始まられたかについては、人形の肩板に「文政四年巳十月求之 吉川佐吉十五歳時求之」と墨書きされたものがあることから江戸時代後期からと推定されています。

前鳥座の人形芝居は三人遣いといい、人形の頭と右手を操る主遣い、人形の左手を遣う左遣い、人形の足を操る足遣いの3人で演技が行われます。そして、人形を操る方式には大阪の文楽系の方法と鉄砲ざしという江戸系の方法とがあり、前鳥座を含めた神奈川県内の人形芝居は、江戸系の方法を受け継いでいるとされています。文楽系と江戸系とは、頭の構造が異なっています。

このコーナーに展示してある人形の頭は、乙女文楽に用いられたもので、文楽系の構造をもっています。人形は演じられることによって豊かな表情と情感が表現されます。展示されている人形だけでなく、是非とも舞台をご覧になってください。

(小川)